

公益財団法人大倉精神文化研究所 令和5年度事業計画

当財団は昨年度に創立90周年を迎え、改めて「世の為に田を耕す」という創立者大倉邦彦の理念に立ち返り、また、当財団の「心豊かな国民生活の実現」に貢献するという目的を実現すべく、令和5年度事業計画を仕上げています。

計画の柱は、定款で謳っているとおり、①精神文化の研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備であり、この三つの柱に沿って事業を着実に推進し、文化の振興に寄与します。

特に令和5年度では、(1)デジタルアーカイブ(貴重資料の画像閲覧サービス)における公開資料の充実、(2)地域研究の促進及びその研究成果の公開、(3)貴重コレクションの書誌データの作成促進及び公開に重点を置きながら、当財団は、以下の事業計画を着実に実施して参ります。

なお、本年度も新型コロナウイルスの感染拡大の対策については、新型インフルエンザ等対策特別措置法の趣旨等を踏まえ、事業の実施に際し、適切な措置を講じていきます。

1 精神文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第1号)

(1) 実用の学の研究及びその成果の普及

当財団は、精神文化についての学術的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料の収集を行っています。

研究所を創立した大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉は、自分は何のために生きているのか、何のために利益を上げるのか、得た利益をどのように使うべきかを真剣に考え、そのたどり着いた答えが教育事業や精神文化事業への取組でした。大倉は、これを天から与えられた自らの使命と考え、精神文化事業を通して、有為な人材を育成することによって、社会をより良いものにしたと考え、当財団を設立しました。

今日、海外企業をモデルに、企業のフィランソロピー(慈善活動、社会貢献活動)やメセナ(文化支援活動)などの必要性が叫ばれていますが、日本にも古くから神道、儒教、仏教等の教えから派生した社会貢献が行われており、江戸時代には石門心学に代表される町人道德も形成されていました。

そこで、令和5年度も引き続き、「世のために田を耕す—実業家の教育・福祉活動」をテーマに、教育・福祉活動に尽力した近代日本の実業家の功績と、その思想的背景について研究を進めます。

その研究成果は、次に掲げる大倉山講演会で公開するとともに、『大倉山論集』第70輯で特集を組みます(後掲、4頁「(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信」参照)。

【大倉山講演会】

令和5年度は、大倉山講演会を4回、表-1「大倉山講演会」に掲示した日程で開催します。いずれ

も横浜市大倉山記念館の指定管理者との共催事業として、記念館のホールで行う予定です。

<表-1「大倉山講演会」>

■共催:横浜市大倉山記念館指定管理者 会場:横浜市大倉山記念館ホール

開催日・場所	演題	講師
4月15日(土)	星一の社会貢献(仮)	立教大学助教 安土 昌一郎
5月20日(土)	黒澤貞次郎の社会貢献(仮)	蒲田モダン研究会 岡 茂光
6月17日(土)	土光敏夫の社会貢献の実践と特徴(仮)	桜美林大学教授・当財団評議員 兼田 麗子
令和6年 3月16日(土)	実業家による日本女子大学への支援(仮)	(講師未定)

(2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であることを説き、当財団を設立しましたが、その一方で東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱していました。

そこで令和5年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めていきます。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究、国際的文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めます。

【公開講演会】

研究成果の一環として、表-2「公開講演会」で掲げた公開講演会や、今昔建築サロンを開催します。

<表-2「公開講演会」>

■東亜同文書院の後身である愛知大学との共催による公開講演会、岡倉天心市民研究会との共催による公開講演会、大倉山記念館指定管理者との共催による今昔建築サロン等

開催日	演題(仮題)	講師
7月1日(土) ホール	東亜同文書院(愛知大学)の卒業生(仮題)	愛知大学教授(交渉中)
11月25日(土) ホール	岡倉天心と東京美術学校(仮題)	未定

(3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学的研究及びその普及活動を行ううえで、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創立から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。

令和5年度は、デジタルアーカイブの公開とホームページの改訂によって、所蔵資料のデジタル画

像や音声、映像をより多く公開できる環境が整いましたので、資料のデジタル化作業を進めていきます。

ア 研究所沿革史資料の調査・整理

研究所には、研究所設立準備中から今日に及ぶ沿革に係る資料や、書簡や葉書が大量に存在し、貴重コレクション「研究所沿革史資料」として整理しています。これらの整理・登録作業を引き続き実施していきます。

また附属図書館の書庫には、大倉邦彦旧蔵雑誌など、未整理の書籍や雑誌、書類が残置されています。これら未整理資料の調査・整理にも着手し、「研究所沿革史資料」などに登録していきます〔第一期3カ年計画2年目〕。

イ 沿革史資料のデジタル化

「研究所沿革史資料」の中には、様々な形態の資料が存在し、外部機関よりの借用依頼等も多いことから、各種資料のデジタル化作業を引き続き進めます。併せて、デジタルアーカイブの公開に向けた作業も実施します(後掲、4頁「1(4)①デジタルアーカイブの充実」参照)。

当財団の活動内容や地域の様子を知るうえで写真が貴重な情報源となりますので、令和5年度は所蔵するアルバム等のデジタル化作業を優先して進めます。

ウ アナログ音源のデジタル化事業

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SP レコードなどを所蔵しています。しかし、テープ類は劣化が著しく、SP レコードは歪みや破損の恐れがあり、また再生機器も無くなりつつあるのが実情です。そこで、前年度に引き続き、公開に向けてアナログ音源のデジタル化を進めます。

エ 沿革史資料目録の OPAC 公開

現在整理作業中の「研究所沿革史資料」は、整理済み資料の目録が約 100,000 点となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用も増えつつあります。しかし、これまでは目録データの検索は所内でしか行えませんでした。そこで、平成 30 年度(2018)より目録データを順次図書館情報管理システム「情報館」のデータに変換し、OPAC(Online Public Access Catalog=オンラインで検索可能な蔵書目録)による公開を進めてきました。

令和5年度は、新たに約 10,000 件の目録データを公開します。

オ 第 47回研究所資料展「沿線案内・地図を通して知る港北区の歴史(仮題)」

平成 29 年度より毎年 8 月、大倉山記念館指定管理者との共催でオープンギャラリーを開催しています。令和5年度は、相鉄・東急直通線の開業を記念して、研究所が所蔵する地図や沿線案内を基に港北区地域の歩みを紹介するパネル展示を行います。

カ 第 48回研究所資料展「大倉邦彦と大倉山記念館展(仮題)」

研究や調査の成果公開の一環として、11 月に行われる「第 39回大倉山秋の芸術祭」にて、横浜市大倉山記念館の歴史を紹介するパネル展示と上映会を開催します。

キ 特別資料展「横綱武蔵山と港北区展(仮題)」

港北区出身の第33代横綱武蔵山は神奈川県出身の唯一の横綱で、現在でも港北区の少年相撲に影響を与え続けています。今回、横浜アリーナで地方巡業が開催されるに際して、横浜アリーナと共催で、研究や調査の成果公開の一環として、武蔵山の生涯等を紹介するパネル展示を開催します。

ク 特別資料展「大倉邦彦と佐賀(仮題)」

大倉邦彦は佐賀県神埼市の生まれであり、郷里でも様々な教育事業を展開していました。そこで、研究や調査の成果公開の一環として、秋に神埼情報館と共催で、大倉邦彦の生涯と佐賀出身者との交流を紹介するパネル展示を開催します。

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、東西両洋における精神文化及び地域における歴史・文化の研究はもとより、その研究成果を国民に提供する公益目的事業を推進しています。令和5年度においても、研究成果等を心豊かな国民生活の実現と文化の振興に役立つよう国民に提供していきます。

ア 研究紀要『大倉山論集』第70輯の編集・発行

当財団の公益目的事業である東西両洋における精神文化及び地域の歴史・文化に関する科学的研究成果を、『大倉山論集』として広く公表します。当財団の研究者や外部研究者が執筆者となり、歴史、思想、宗教、文学、民俗、風俗等人文科学を中心とした論考を掲載し、令和6年3月に発行(500冊)します。国立国会図書館、アメリカ議会図書館など国内外の図書館を中心に配布する計画です。

イ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容等の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、財団の事業案内や大倉山記念館の建物紹介、展示解説等、精神文化普及のための各種リーフレット等の広報用資料を編集・発行します。

ウ 電子情報の発信

近年、インターネットを通じた電子情報の公開が進んでおり、当財団でも所蔵する古い映像資料や音源資料のデジタル化と、インターネットでの公開を進めてきました。そして新型コロナウイルス感染症が拡大した令和2年度以降、臨時休館や外出・遠距離移動の制限などにより、電子情報の発信の重要性がさらに増しています。そこで令和5年度は、特に以下に掲げる2つの事業を実施します。

① デジタルアーカイブの充実

創立90周年の令和4年度にデジタルアーカイブの環境を整備し、所蔵資料のデジタル画像や音声、映像をより多く公開することが可能となりました。そこでデジタル化済の画像は形式等を整えて、また未着手の資料はデジタル化を進めて、順次公開を進めていきます。(再掲、3頁「1(3)イ 沿革史資料のデジタル化」参照)

令和5年度は、(1)デジタル化したアナログ音源の一部を(再掲、3頁「1(3)ウ 沿革史資料のデジタル化」参照)、また(2)所蔵する大倉邦彦の揮毫を、インターネットで公開します。

② 『大倉山論集』のPDF(Portable Document Format)による公開

前年度に刊行した『大倉山論集』第69輯を、誰でも閲覧できるように、PDFで公開します。

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第2号)

港北区、横浜市、神奈川県等の行政や、公共図書館、博物館、学校、市民サークル等と幅広く連携し、講演、授業、情報誌等への原稿執筆、館内見学会、地域散策等を行うことにより、地域理解や地域文化の発展に寄与します。

令和5年度も、港北区役所や港北図書館、市民サークル等と積極的に連携を図り、精神文化の普及と地域文化の発展に努めます。

(1) 他機関との連携事業

ア 大倉山記念館指定管理者

大倉山記念館指定管理者と協力して、8月のオープンギャラリーの展示会、9月と2月のオープンデイ、10月頃のタゴールソングコンサート等(再掲、2頁「1(2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及」参照)を開催します。また、記念館3階の回廊にて、大倉邦彦や記念館に関するパネル展示を常設します。

イ 港北図書館及び港北図書館友の会

港北図書館及び港北図書館友の会等と連携して、4月の武蔵山に関する講演会や展示会をはじめ、地域文化に関する講演会や展示会等を開催します。

(2) 講師派遣

依頼により各所へ講師を派遣します。

(3) 依頼原稿の執筆

港北区役所発行の情報紙『楽・遊・学』(発行部数 3,500)の「シリーズわがまち港北」、ASA 大倉山発行『大倉山 STYLE』(発行部数 8,500)の「大好き！大倉山」に、原稿を執筆します。その他依頼により原稿を執筆します。

(4) 調査協力

資料所蔵者等からの依頼により、地域資料の調査や整理、聞き取りなどを行います。

(5) 見学案内

行政機関、各種団体・サークル等の依頼や、各種イベントに合わせて横浜市大倉山記念館や周辺地域の見学案内を行います。

(6) 地域資料の収集・整理

当財団が所在する横浜市港北区をはじめとする周辺地域の歴史や文化などを知るためには、図書・雑誌・地図などの印刷資料や写真などの地域資料が不可欠です。しかしこれらの多くは非市販資料で、散逸してしまう可能性が高いため、これら地域資料の収集、整理作業に努めます。

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

附属図書館は、創立者大倉邦彦が目指した東洋と西洋の精神文化の融合を追及する専門図書館として、哲学・宗教・歴史などの専門図書から入門書まで約110,000冊の蔵書を有しています。その中でも、神道・儒教・仏教等の資料群や貴重コレクションは、全国的にも学術価値の高い資料であり、それらを誰でも自由に利用出来る図書館として高く評価されています。

令和5年度も、図書資料の充実・整備を図り、情報提供機能を強化して、より利便性の高い図書館を目指します。

(1) 図書館の公開

当館は、原則として毎週火曜日から土曜日まで週5日一般公開します(開館時間は、午前9時30分から午後4時30分まで)。週5日の一般公開に加えて9月と2月の大倉山記念館オープンデー、11月の大倉山秋の芸術祭、2月の大倉山観梅会等地域に根差した催事が行われる時は、臨時開館も実施します。

また、開館にあたっては利用者の健康と安全に十分留意し、新型コロナウイルス感染拡大防止に必要な措置を講じていきます。

(2) 資料の収集

当館は、精神文化に関する資料、特に神道・儒教・仏教や歴史の専門的資料に重点を置いて収集しています。さらに、一般利用者にも読みやすい入門書・教養書、小中学生から一般の方までを対象とした「やさしく読める心の本コーナー」(子ども向け精神文化図書コーナー)の図書、専門機関や大学発行の雑誌資料等も収集します。資料は外部からでもインターネットで検索できるようOPACにより、これを公開します。

(3) 専門図書館としての資料管理と機能の充実

精神文化の専門図書館である当館は、一般資料に加えて、23種約40,000冊に研究所沿革史資料(約110,000点)を加えた24種類に及ぶ貴重コレクションを所蔵しています。貴重コレクションは、①開館に先立ち大倉邦彦が収集した資料、②大倉邦彦の人脈をもとに受贈又は購入した資料、③研究過程で収集した資料に大別できますが、その大半は他館では所蔵していない貴重な資料です。

ア 貴重コレクション書誌データのOPAC公開

貴重コレクションは、平成25年度から独自に書誌データの作成を進めており、24種類のコレクションのうち、令和4年度までに、17コレクションについてOPAC検索を可能にしました。残りのコレクションについても、次のように継続して書誌データの作成を進め、専門図書館としての機能充実に図ります。

- ① 研究所創立から90年を迎えた令和4年4月に、大倉邦彦旧蔵文庫(約3,000冊)の書誌データのOPAC公開をしましたが、一般資料に分類されていた邦彦旧蔵資料や未整理資料の書誌データは、現在も整備中です。令和5年度も継続して整備を進めます。
- ② 令和5年度は、令和4年度より継続整備中の岩波茂雄寄贈書と新たに葛巻常四郎寄贈書と

松井等旧蔵文庫の書誌データ整備を開始します。

- ③ 平成30年度より開始した研究所沿革史資料の書誌データ公開は、令和5年度に約10,000件をOPAC公開します(再掲、3頁「1(3)エ 沿革史資料目録のOPAC公開」参照)。

イ 閉架書庫内資料の簡易データの詳細化

当館では、図書館情報管理システムの導入に際して、より多くの資料のOPAC検索を可能にすることを基本方針としたため、多くの資料は書名・著者名の最小限の項目だけ入力した「簡易書誌データ」で運用を開始しました。導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を追加する詳細化の作業を進めています。

令和5年度も閉架書庫内資料の一部に残る簡易書誌データの内、約2,000件を詳細化して利用者の利便性を高めます。

ウ 貴重コレクションの撮影

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピー(電子式複写)を禁止しています。その代替措置として、複写依頼のあった資料について司書によるデジタル撮影を行っています。書誌情報のOPAC公開を進めたことで、外部からの蔵書検索が増加し、資料の存在が認知されることによって、大学・研究機関・個人研究者からの複写依頼も増えています。今後も依頼された資料のデジタル撮影を進め、資料の利用に便宜を図るとともに、撮影した写真データをデジタルアーカイブとして順次公開を進めていきます。

エ 資料の保全

当館の貴重コレクションは、他館で所蔵されていない貴重な資料が数多く含まれています。これらの資料を健全な状態で保存し、後世に伝えていくことは当館の重要な役割の一つです。

① 書庫内環境の整備

築年数の古い当館の書庫は、外気を遮断できる構造ではありませんので、書庫内のサーキュレーター稼働や、防虫のための粘着マット使用、ホコリ・カビの除去作業等により、資料の保全に適した書庫内環境の整備を年間を通して行います。

② 資料保存箱の作成

当館では、貴重資料を中性紙の保存箱・封筒に入れる作業等を進めています。平成28年度からはボランティアの協力を得て、1冊ごとのサイズに合わせた中性紙の保存箱を作成してきましたので、令和5年度も継続して実施します。また、本年度は保存箱作成と配架作業を専門業者にも委託し、より多くの貴重資料の保全を図ります。

(4) 利用者のニーズに応じた図書館サービスの提供

ア レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスサービスの向上が強く求められています。専門図書館協議会、神奈川県図書館協会、近隣図書館、株式会社ブレインテックなどの団体・図書館等主催による研修に積極的に参加し、司書のス

キルアップを図るとともに、他機関との情報交換を行い、連携を深めることで、情報提供機能を強化します。

また、研究所の附属という当館の強みを活かし、研究員と連携して利用者の多様なニーズに応えるレファレンスサービスの提供を図ります。

イ インターネットの活用

当館の利用者は、全国の研究者と、近隣住民に大別されます。研究者はインターネット検索により専門資料の利用に至ります。一方、近隣住民は直接来館して一般書を利用します。

このような利用者の多様な要望に応えるため、蔵書検索、資料の予約・複写申込、貴重コレクションの閲覧申込、レファレンスサービスといった図書館サービスの提供にインターネットを活用し、利便性の向上を図ります。

(5) 利用促進のための広報活動

ア 附属図書館利用案内リーフレットの発行

当館では、利用方法や所蔵資料の概要をまとめた利用案内リーフレットを作成し、催事や見学会で配布して広報を行っています。

令和5年度は、資料整理やOPAC公開の成果等最新の情報を反映したリーフレットの改訂版を発行し、来館者等に配布します。また、令和3年度に開設した「やさしく読める心の本コーナー」の利用拡大のため、子ども向けの簡易な文章のリーフレットを新たに制作します。

イ ホームページでの情報発信

ホームページでの定期的な新着図書の紹介・催し物の案内、利用に関するお知らせ、特定のテーマのブックリスト、おすすめ本等の情報を随時発信します。

ウ 所蔵資料の紹介展示

閲覧室の小スペースや展示ケースを利用して、9頁の表-3で提示した資料展を行い、閲覧利用や貸出につなげます。

① 図書館資料展

図書館資料展は、他館での所蔵がなく、普段見ってもらう機会の少ない貴重コレクションを中心に紹介する展示です。令和5年度は、春にタゴール月間記念展示、夏に小・中学生を対象とした資料展示を実施する他、豊かな心を育むことをテーマとする資料展示を行います。

② 図書館ミニ展示

図書館ミニ展示では、当財団で開催している講演会、大倉山秋の芸術祭での図書館企画ワークショップ等に合わせて、各イベントの広報や内容理解を深めるため、貸出可能な資料を中心に紹介します。時節等に沿ったテーマ展示も行います。（1～4頁「1 精神文化の研究及びその成果の普及」参照）

<表-3 「所蔵資料の紹介展示」>

種別	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
図書館資料展	タゴール月間記念展示		○										
	子ども関連資料展示					○							
	大倉邦彦関連資料展示								○				
	その他テーマ展示											○	
図書館ミニ展示	大倉山講演会	○	○	○									○
	愛知大学共催講演会					○							
	岡倉天心市民研究会共催講演会								○				
	図書館ワークショップ							○					
	時節に沿ったテーマ展示										○		

エ 大倉山秋の芸術祭

大倉山秋の芸術祭は、多くの市民が訪れることから、当館を広く知ってもらう機会と捉え、開催期間中の日曜日・祝日は臨時開館します（再掲、6頁「3(1) 図書館の公開」参照）。

令和5年度は、図書館ワークショップとして貴重コレクションを使用した「古文書講座」を開催し、関連資料の展示も行います（再掲、8頁「3(5)ウ 所蔵資料の紹介展示」参照）。

また、除籍本等を無償配布する「リユース文庫」も設置して、市民の読書活動の推進と資料の有効活用を図ります。

オ 図書館総合展

毎年開催される図書館総合展は、専門業者から図書館に関心を持つ一般の方まで、全国から多くの来場者が訪れます。令和2年からコロナ禍により、全コンテンツがオンライン及びサテライト会場での開催となりましたが、当館は毎年参加してきました。令和5年度も継続して参加し、当館の周知と新規利用者の開拓を図るとともに、他館や専門業者等との交流・情報入手の機会とし、図書館サービスの向上に役立てます。

カ 外部機関との連携

港北区役所や港北図書館、姉妹図書館提携を結ぶ佐賀県神崎市立図書館、その他関係機関等と連携して、読書活動推進や広報活動に取り組みます。